

**市 皿焼古窯館** (皿焼12号窯) — 地図 D-4

渥美古窯の一つ「皿焼古窯跡群」(13基)の中で最も状態が良かった「12号窯」を復元保存したものです。日常生活品や特殊製品を焼いた渥美古窯の窯の構造が見られる唯一の施設です。



- 開館時間 午前9時～午後5時
  - 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始(12月28日～1月4日)
  - 入館料/無料
- ※入館を希望される方は、渥美運動公園 競技場事務室へお申し出ください。



**市 伊良湖東大寺瓦窯跡** — 地図 B-4

平安から鎌倉時代に活発に生産活動が展開された渥美古窯の一つで、3基の窯が保存されています。奈良東大寺鎌倉再建時の瓦を焼いた窯跡で、「東大寺大佛殿瓦」と刻印された軒丸瓦や軒平瓦、平瓦などの瓦や瓦経、瓦塔などの宗教用具が出土しています。



**市 宮山原始林** — 地図 B-5

宮山は、県の最南端近くにあつて、高温多湿のため草木がよく茂り、原生林の状態を保っています。樹木は、暖地性常緑闊葉樹を主として、常緑植物と陰地性の草木が密生し、典型的な海岸暖地性の常緑樹林となっています。



**県 桜のシデコブシ自生地** — 地図 E-4

シデコブシの分布は、非常に限られています。湿地を好み3月下旬頃、白ないしはピンク色の花をつけます。桜の群落には、約200株が自生しており、伊川津の群落とともに、県下でも有数のシデコブシの自生地となっています。



**県 伊川津貝塚** — 地図 F-3

伊川津町郷中全体に広がる大貝塚です。神明社の境内では、貝が1m以上の厚さで堆積したところもあります。貝塚からは、縄文時代後期から晩期の遺物や人骨が出土し、中でも又状研歯のある頭骨や有髹土偶は全国的に有名です。



**市 皿焼古窯群** — 地図 D-4

皿焼古窯が立地する山の東側斜面に築かれた窯跡で、8基のうち3基が調査されています。ここからは、日常生活に使われた山茶碗や小皿、甕、子持器台や香炉といった宗教用具などが出土しています。窯の保存状態が良好な遺跡です。



**県 ハマボウの野生地** — 地図 C-5

西南暖地の海岸付近に自生する落葉樹で、初夏から8月にかけて、むげに似た黄色の花を咲かせます。温暖な渥美半島に亜熱帯植物が存在し、ここに自生するものが、その分布の北限にあたるものとして県から天然記念物に指定されています。



**市 ハマセンダン** — 地図 C-5

近畿以西の暖地の海岸近くに生育する南方系の半落葉樹です。8月から9月にかけて、白く緑っぽい小さな花を咲かせます。県内では他に見られず、その生育の北限とみられ、樹齢はおよそ500年と推定されています。



**市 泉福寺** — 地図 E-4

天平15年(743)観音比丘尼菊本(渥美重国の娘)が開山との伝承がある泉福寺。鎌倉～室町時代に製作された十一面観世音菩薩立像、薬師如来坐像といった彫刻、江戸時代に整備された参道の石段や、鎌倉～室町時代のもともみられる宗教的な遺構である中世墳墓、樹齢約300年のシイの木など多くの文化財があります。



江戸時代には徳川家康から寺領安堵の朱印状が下され、二代秀忠が鷹狩りに際して宿泊所とするなど、渥美半島でも歴史ある寺の一つです。昭和37年の火災により、本堂、庫裏、一部の仏像などが焼失し、現在の本堂は昭和47年に再建されています。



**市 伊良湖岬灯台** — 地図 A-5

昭和4年に開設されたこの灯台は、光度1万7千カンデラで、潮騒が聞こえる半島の先端に立っています。海の難所といわれる「伊良湖度合(伊良湖水道)」で対する神島灯台とともに行き交う船舶の安全を守っています。伊良湖岬観光のシンボリック存在で「日本の灯台50選」に選定されています。



**市 「椰子の実」記念碑** — 地図 B-5

明治31年、民俗学者柳田國男が恋路ヶ浜で拾った椰子の実の話を親友島崎藤村に語り、「椰子の実」の詩が生まれました。昭和11年には、大中寅二の作曲により国民歌謡となりました。ここには、詩・曲二つの記念碑が揃って建てられています。



**万葉の歌碑**—地図 A-5

岬の先端、灯台背後の古山斜面にこの歌碑は建てられています。碑面には、天武朝の皇族麻統王が伊良湖に流された時に詠まれた歌「うつせみの命を惜しみ浪にぬれ伊良湖の島の玉藻刈り食す」(万葉集卷一)が鈴木翠軒の揮毫により刻まれています。



**芭蕉翁之碑**(芭蕉園地)—地図 B-4

ゴルフ場入口近くの岩上に「鷹一つつけてうれし伊良湖崎」と刻まれた芭蕉の碑があります。これは、芭蕉が貞享4年(1687)に保美隠棲中の愛弟子杜国と共に伊良湖を清遊した時の句で、この地方の俳人が芭蕉来訪100年を記念して、寛政5年(1793)に建立したものです。



**磯丸園地**—地図 B-4

ゴルフ場の西、国道から少し北に入った所に漁夫歌人糟谷磯丸の園地があります。ここには、「夏ころもきてもみよかしいらこ崎涼しき浪のよるの月かげ」と刻まれた歌碑や展望台が設けられ、磯丸をしのぶ人々の憩いの場所となっています。



**西の浜製塩遺跡群**—地図 B-3, B-4, C-2

西の浜一帯は、製塩土器による「古代の塩づくり」が盛んに行なわれた所です。「西の浜海浜の森」には、岬1号遺跡の製塩のマウンドが保存されています。ここで作られた塩は、奈良の都平城京へも特産物(調塩)として運ばれていました。



**伊良湖神社**—地図 B-5

御衣祭で有名なこの神社は、昔伊良久大明神といわれ、その草創は貞観17年(875)にまでさかのぼります。この地が伊勢神宮領伊良湖御厨であったことから、神宮と深い関わりを持っていました。現在の御衣祭は、4月の第3日曜日に行なわれます。



**藤原古墳群**—地図 C-2

昭和43年に発掘調査されたこの古墳群は、6世紀から7世紀に造営された豪族の墓です。18基確認でき、金銅装大刀、耳環、鉄鏃、須恵器などの副葬品が出土しています。この古墳は、円墳で、平坦な海浜に立地する大変に珍しいものです。



**保美貝塚**—地図 D-3

免々田川西岸の台地に広がるこの貝塚は、縄文中期頃から弥生、古墳各時代の遺物が得られ、質・量ともに優秀です。出土品には、人骨をはじめ又叉研歯のある頭骨、土器、骨角器、石器、銅鏃などがあり、盤状集積という珍しい埋葬の方法も見られました。



**烏丸大納言の墓**—地図 D-3

保美霊山寺の裏には、室町幕府八代將軍足利義政のころに従一位准大臣となった烏丸資任卿の宝篋印塔があります。卿は応仁の乱を避け、所領伊良湖御厨の保美の里に逃れ、潔堂義俊を開山に堀切に常光寺を建立し、この地でその生涯を終えました。



**杜国公園**—地図 D-3

杜国は、芭蕉の愛弟子として知られ、罪により郷里(名古屋)を追われ、保美の里に隠れ住みました。ここには、「杜国屋敷」の標柱と「春ながら名古屋にも似ぬ空の色」と刻まれた句碑があり、杜国をしのんで訪れる人々の憩いの場所となっています。



**杜国の墓と師弟三吟の句碑**—地図 D-3

福江町潮音寺の境内に杜国の墓と師弟三吟の句碑が並んで建てられています。墓は、境内に移される以前の延享元年(1744)、彼を慕う人々によって潮音原に建立されました。また、碑には芭蕉と越人、杜国の句が刻まれ、大正10年(1921)に完成しています。



「麦はえて よき隠家や 畠村」  
はせを(芭蕉)  
「冬をさかりに 椿咲くなり」  
越人  
「風空 蚕かむ犬の ねがえりて」  
野仁(杜国)

**鸚鵡石**—地図 F-4

伊川津椏の山の中に鸚鵡が人まねをするように音を反響させる岩があります。伝説によると、昔玉栄という娘がいいなづけの心变りを恨んで母の形見の横笛を抱き岩上から身を投げ亡くなりました。以来、この恨みからか笛の音だけは反響しないということです。



**江比間句碑公園**—地図 F-3

かつての盛義海水亭前に数基の句碑があったのを住吉神社近くの園地に移転し、その後も有志によっていくつかの句碑が建てられています。白田垂浪、市川丁子、鈴木鵬干、太田鴻村、伊藤明峰、松尾芭蕉などの句碑がその主なものです。



**田原市街 拡大図**

# 渥美半島文化財



## 凡例

- 国道 —
- 県・市道 —
- 河川 —
- サイクリングロード —
- 文化財・名所等 ●

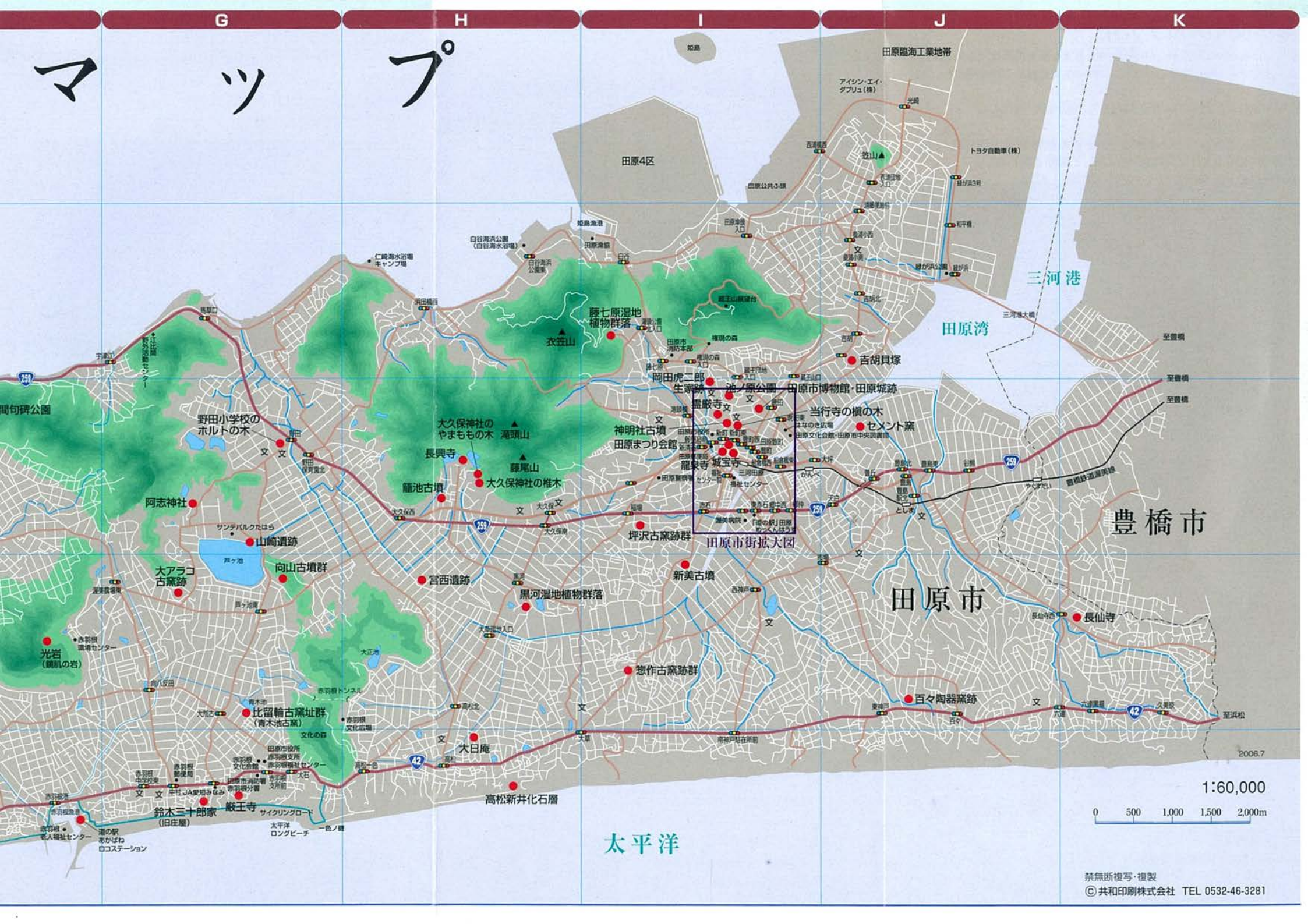


三河湾

伊勢湾

太平洋

# マップ



豊橋市

田原市

太平洋

1:60,000

0 500 1,000 1,500 2,000m

禁無断複写・複製  
© 共和印刷株式会社 TEL 0532-46-3281